

自己免疫性肝疾患 患者実態調査

調査結果報告書

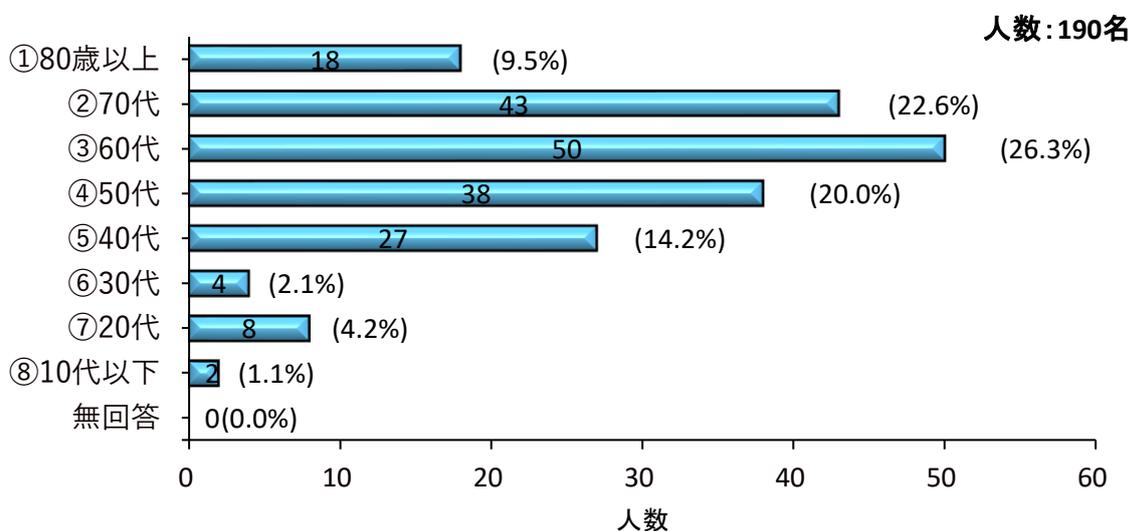


特定非営利活動法人
東京肝臓友の会

I. プロフィールについて

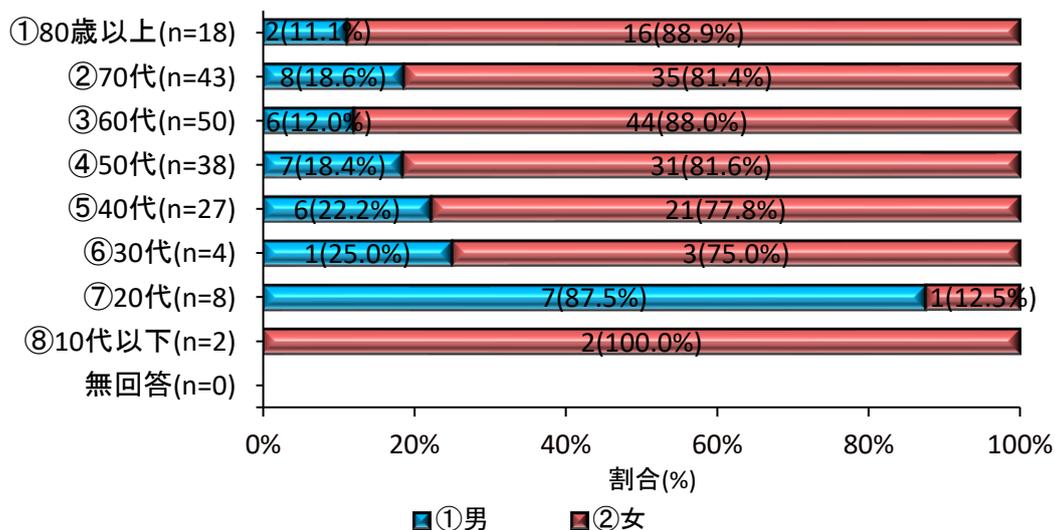
1

年齢について伺います。



★回答者は60代が最も多く、50代～70代が全体の約7割を占める。
(前回2010年調査:全34人中60代が38%で最多)

≫ 性別



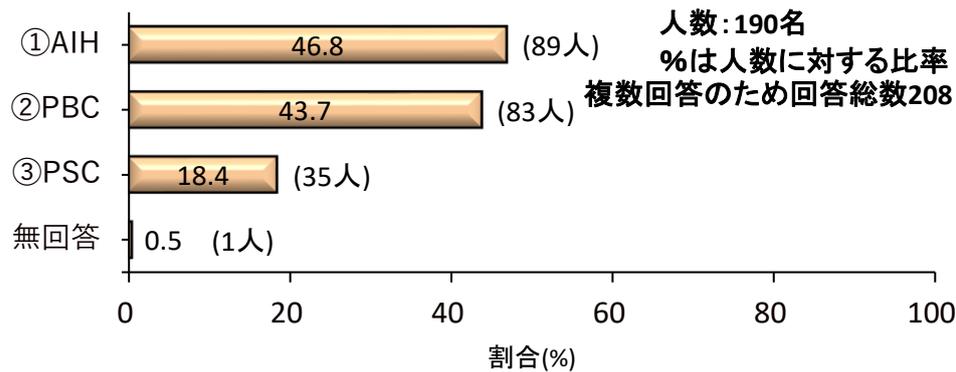
★ほぼすべての年代で圧倒的に女性の割合が高い。20代で男性の割合が高いのは、この年代にPSC患者の男性が多いためである。(参照: II-5、性別・年代別グラフ)。

Ⅱ. 自己免疫性肝疾患の治療について

以下、AIH: 自己免疫性肝炎、PBC: 原発性胆汁性胆管炎、PSC: 原発性硬化性胆管炎とします。

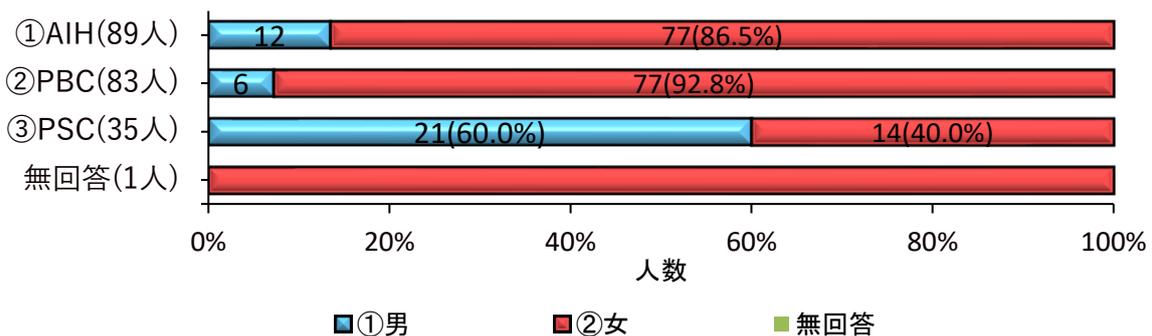
5

病名について伺います。



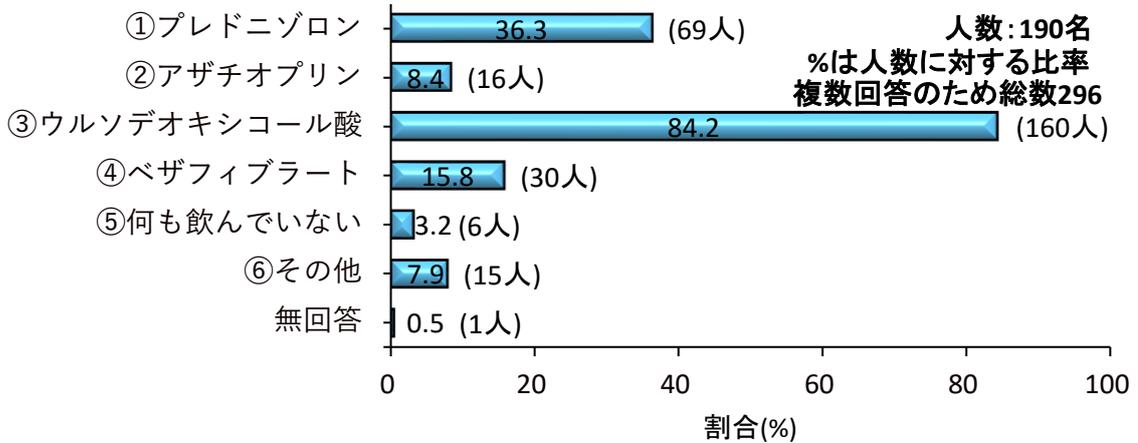
★回答の選択肢はAIH、PBC、PSCの3つを用意した。オーバーラップであるAIH+PBC (15名)、AIH+PSC(3名)は複数回答のため、回答総数が多くなっている。
なお厚生労働省「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班の2018年の調査によれば、全国の推定患者数はAIH約30,000名、PBC約37,000名、PSC約2,300名である。

性別



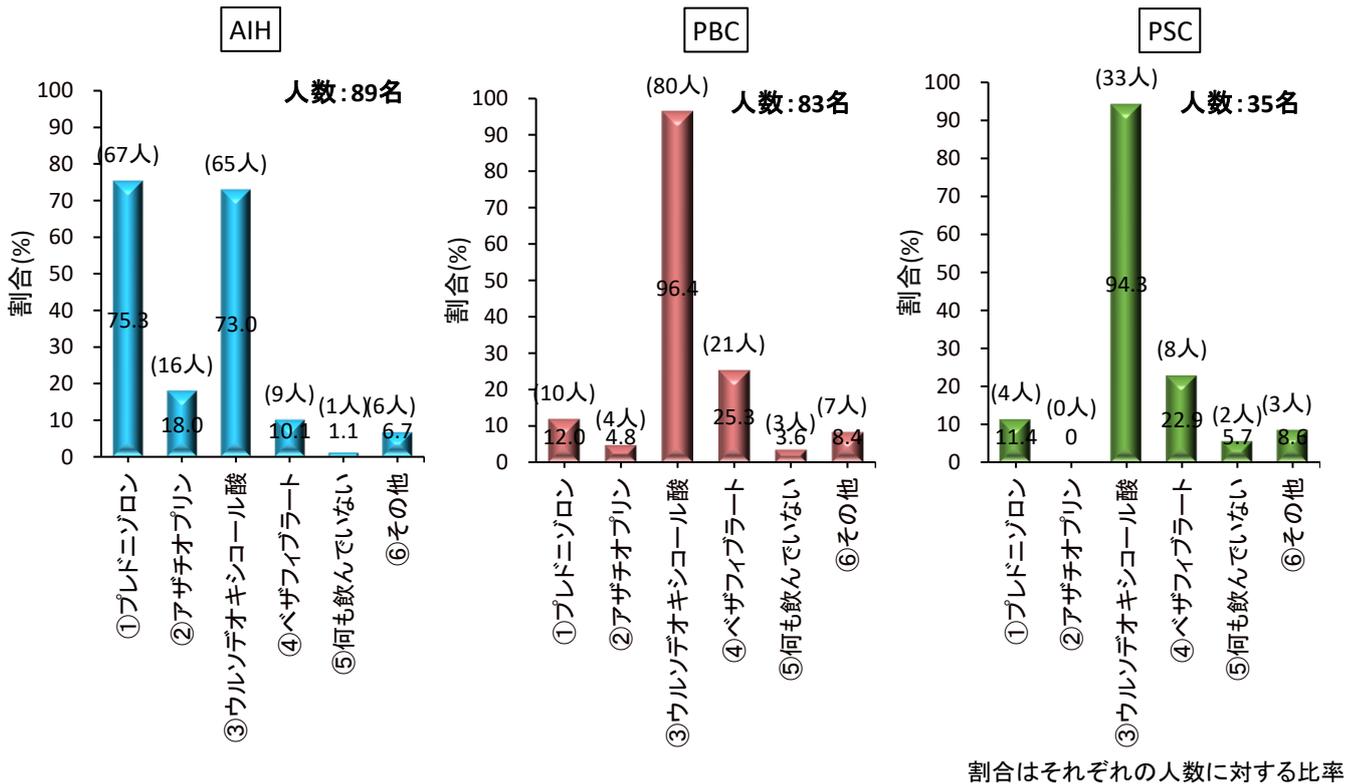
★AIHとPBCは女性の割合が9割前後だが、PSCは男女比3:2と男性のほうが多い。(オーバーラップは複数回答)
なお、上記研究班の同調査によるおおよその男女比は、AIH 1:4、PBC 1:4.3、PSC 1:0.9である。

現在、AIH・PBC・PSC の治療薬は何を服用していますか？



★全体ではウルソデオキシコール酸が圧倒的に多い。

≫ 病名別



★オーバーラップの人の回答は重複してカウントされている。ウルソデオキシコール酸は、胆汁うっ滞性疾患である PBC、PSC で 95%前後と大多数が服用しており、プレドニゾロンがメインであると予想した AIH でも 7 割を超えている。



特定非営利活動法人
東京肝臓友の会

